

# 市民からの持続可能性アセスメントの提案とモデル事業の実施

活動地域 長野県

ひろげる助成

3年目

知識の提供・普及啓発

提言、冊子等の公表、刊行、発信	7件
調査活動、学習会等の開催	32回
今年度計画の達成度	90%
全体計画の達成度	90%



万博会場の自然再生に向けたロードマップ (提言)

## 苦勞した点と工夫した点

### ■ 苦勞した点

「環境教育への展開」が新型コロナウイルス禍により思うように実施できなかった。そこでオンラインで小中学校教員向けの講座に協力し、本会が開発したプログラム案を紹介し、連携を広げた。

### ■ 工夫した点

各地の環境NPO (大阪、倉敷、東京) と協働したモデル事業の実施と、専門団体・学会との連携。

## 課題

日本では持続可能性アセスメントが導入されていない。開発行為の持続可能性を評価する仕組みを構築することで、SDGsに向けた取組みの実効性を高めていく必要がある。

## 目標

持続可能性アセスメントを市民活動の分野から提言し、実践を広げていくことで、日本における持続可能性アセスメントの導入を促進する。

## 活動内容と成果

- ①環境アセスメント学会年次大会での特別集会開催
- ②環境アセスメント学会誌への報告論文 (査読付) 発表
- ③オンライン学習会等の開催 (4回、延べ156人参加)
- ④大阪万博アセス「私たちのロードマップ」の発表
- ⑤夢洲の生物多様性調査 (20回、延べ82人参加)
- ⑥小冊子「夢洲 生きものフォトアルバム」刊行 (1回)
- ⑦「地域の価値」をつくる (東信堂) への執筆参加
- ⑧オンラインSDGs学習ソフト「つきのくんと考える<開発と環境>」プログラムの作成・公開
- ⑨小中学校教員向けオンライン講座への協力 (3回)



WEBサイト「つきのくんと考えるSDGs」

## 全助成期間の活動を振り返って

### ■ 成果

- ①モデル事業を通じて、持続可能性アセスメントを広げる仲間ができた
- ②国内に広める上での課題や市民活動の役割が明らかになった
- ③環境教育分野での実践ツールを開発し、検証することができた

### ■ 課題

- ①持続可能性アセスメントについては、まだ社会的な認知度は低い
- ②国・自治体の政策・計画及び企業の経営戦略に対する市民からの持続可能性アセスメントについては学習段階にとどまった



活動の成果は書籍にも反映された

## 今後の展望

- ①環境影響評価法改正議論への市民サイドからの意見に反映させていくために、アセスのあり方に関するオンライン学習会等を展開していく
- ②大阪・関西万博への市民アクションを引き続き展開していく。その際、企業との協働を視野に、モデル的な実践例の開拓に努める
- ③WEBゲーム「つきのくんと考える開発と環境」をいかして、学校と連携したプログラムを開拓していく

〒398-0002  
長野県大町市大町3302  
電話：0261-22-7601 (Fax兼用)  
E-mail: npo@omachi.org  
HP: <http://npo.omachi.org/>

